

高圧用 接地補償用コンデンサ

GC-16CA GC-17CA

JEM 1362 規格準用品

自家用需要家の受電端に絶縁変圧器が使用されている場合、負荷回路の地絡事故を検出するため地絡継電器を設置します。零相変流器より電源側の対地静電容量が少ない場合、地絡電流が地絡継電器の動作感度に至らず、地絡検出が困難になります。地絡継電器を確実に動作させるためには、零相変流器の電源側に接地補償用コンデンサを接続し、地絡電流の戻り回路を作る必要があります。



GC-16CA

GC-17CA

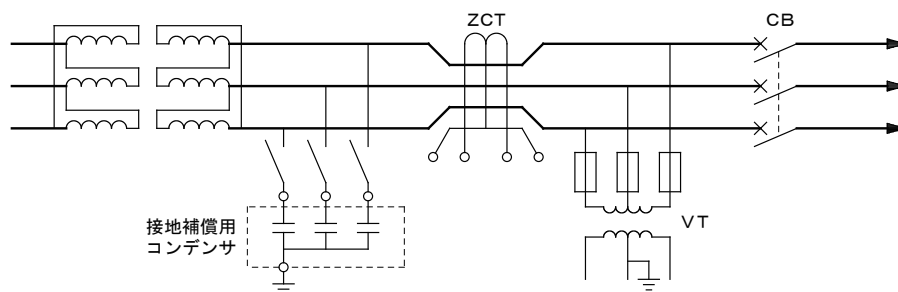
定格・性能

項目	形式	GC-16CA	GC-17CA
定格電圧		AC3300/ $\sqrt{3}$ V	AC6600/ $\sqrt{3}$ V
定格周波数		50/60Hz	
定格静電容量		0.4 μ F × 3	
絶縁強度		10/30kV	16/45kV
周囲温度		-20℃ ~ +60℃	
最高許容電圧		定格電圧の115%	
容量許容差		定格値に対して ±5%	
商用周波耐電圧		AC10000V 1分間 DC30000V 10秒間 (端子間・端子一括~ケース間)	AC16000V 1分間 DC45000V 10秒間 (端子間・端子一括~ケース間)
設置場所		屋内用	
外装色		マンセル記号 5Y 7/1	
質量		約9kg	約15kg

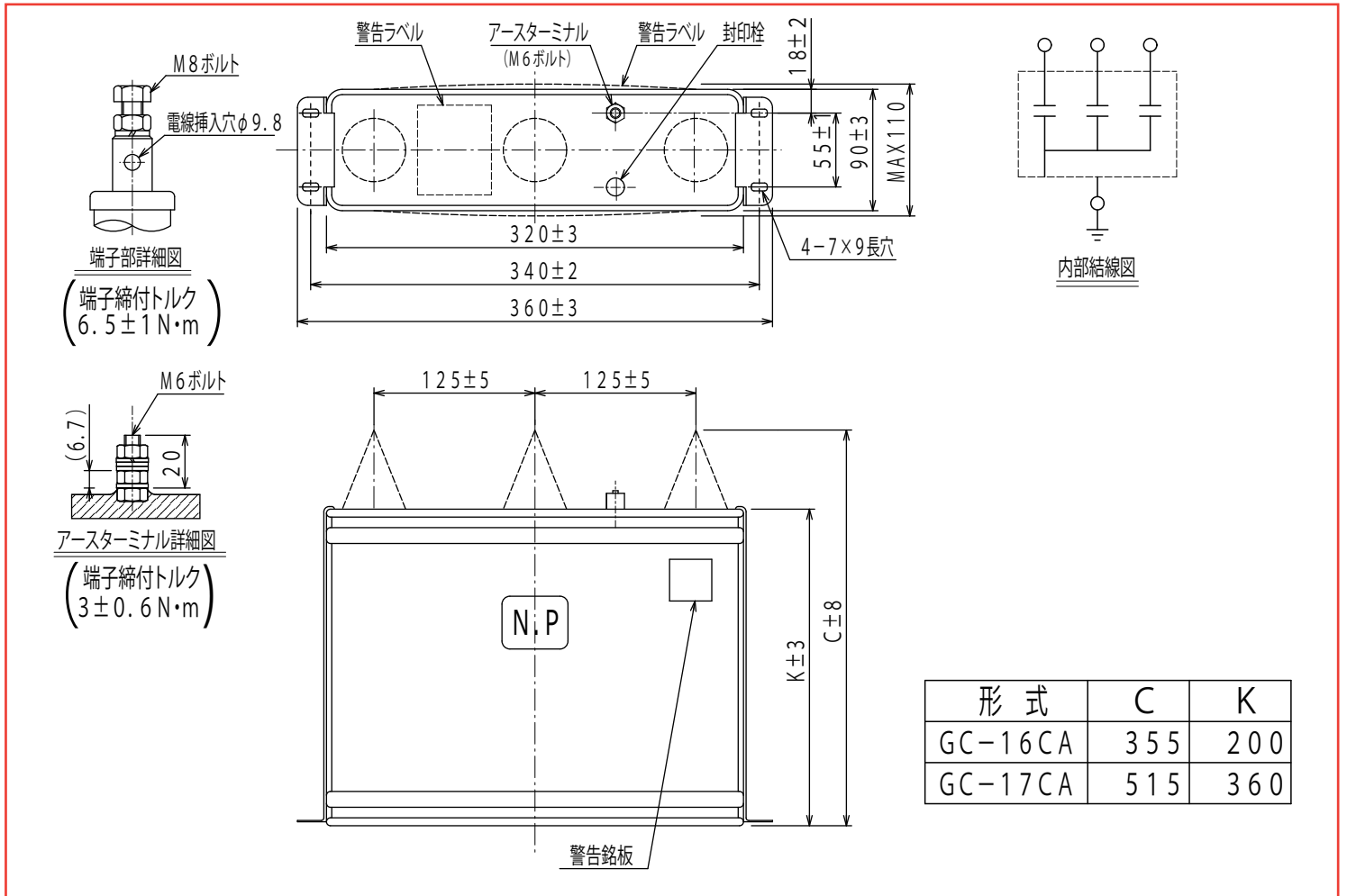
ご注意

1. 接地補償用コンデンサは ZCT の電源側に設置してください。
2. 接地補償用コンデンサのアース線に ZCT を設置する場合は接地補償用コンデンサ本体を大地から絶縁してください。絶縁物は、一般的にフェノール樹脂等（ベーク板）が使用されます。
3. 接地補償用コンデンサは必ず固定してご使用ください。また、横向き取付はしないでください。
4. 直射日光・雨露・結露のない環境でご使用ください。
5. 盤内温度は、周囲温度範囲内でご使用ください。
6. 端子部への電線接続は両手締付により、規定のトルクで確実に締め付けてください。
7. 接地保障用コンデンサを複数台設置する場合、コンデンサ間隔を 50mm 以上離してください。
8. 接地保障用コンデンサの端子部（碍子）を持って運搬しないでください。
9. 接地保障用コンデンサに電荷が蓄えられている場合がありますので、検電器で確認後放電させてからお取り扱いください。
10. 端子部と母線間を接続する電線は、高圧用 KIP 電線等、最大 38sq をご使用ください。
11. アース線のサイズと接地の種類は、14sq の IV 線等を使用し A 種接地としてください。

接続図



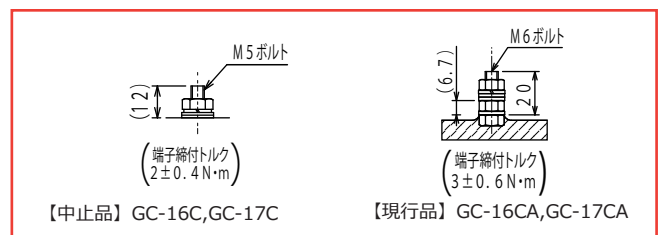
外形図



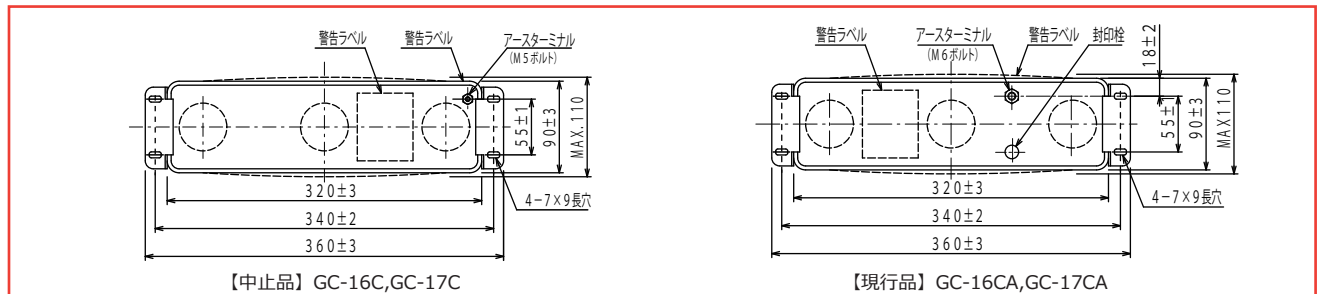
中止品との違い

中止品 GC-16C, GC-17C と、後継形式である GC-16CA, GC-17CA は定格や性能、取付寸法に変更はありません。
変更点は下記の通りになります。

- ① アースターミナルのサイズ変更
M5 ボルト → M6 ボルトに変更しました。



- ② アースターミナル位置変更



光商工株式会社

URL <https://www.hikari-gr.co.jp>

継電器営業部 〒104-0061 東京都中央区銀座 7-4-14 TEL:03-3573-1362 e-mail:keiden@hikari-gr.co.jp
 大阪営業所 〒530-0047 大阪市北区西天満 6-8-7 TEL:06-6364-7881 e-mail:osaka@hikari-gr.co.jp
 名古屋営業所 〒460-0008 名古屋市中区栄 4-3-26 TEL:052-241-9421 e-mail:nagoya@hikari-gr.co.jp
 福岡営業所 〒810-0061 福岡市中央区天神 4-4-24 TEL:092-781-0771 e-mail:fukuoka@hikari-gr.co.jp
 技術相談窓口 0120-58-7750 (フリーダイヤル) 携帯・PHS などではご利用いただけません。